

いわて復興だより

がんばろう！岩手、つながろう！岩手

三陸復興

第49号
(平成25年10月1日号)
岩手県

復興に向けて歩んでいる岩手の今を紹介します

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます。この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

黄金色に変わる田園風景に秋を感じる今日この頃。復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します。

平成25年【第3回】 「いわて復興ウォッチャー調査」 の結果を公表しました

岩手県は、東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するために、「いわて復興ウォッチャー調査」を実施しています。

これは被災した市町村に居住又は就労されている方を対象に、3ヶ月に1回実施されるものです。

今回は、今年第3回目（平成25年8月実施）の調査結果から、主なデータを紹介します。

被災者の生活の回復度

「回復」または「やや回復」：42.7%（前回調査49.6%）

前回調査と比べ、6.9ポイント下回った。災害公営住宅の完成や入居開始等を評価する声がある一方、住宅再建の見通しが立たないことで、周りに取り残されていると感じる等の意見も見られた。

住田町の世田米（せたまい）地区では、東日本大震災津波で被災された方々を対象に、「住田型復興モデル住宅」の見学会を開催しています。

「住田型復興モデル住宅」とは、住田町内の業者が中心となって、地域材の供給から設計、施工に至るまでを行った住宅のこと。被災者の生活再建を支援するとともに、地域の産業振興を図る目的で建設されました。

今回展示されているモデル住宅は3棟。木造平屋建て1棟と2階建て2棟、延べ床面積は77.84平方メートルから132.49平方メートル。建物価格は、1,722万から2,426万円。

特長としては、地域材のズギを豊富に使用し、耐震性、省エネルギー性等の性能の高さに加え、太陽光発電設備も備えています。

また、国の「長期優良住宅」の認定を受けていることから、税制面の優遇も受けられます。

9月21日（土）に行われた見学会には、住田町に隣接する大船渡市や陸前高田市から多くの

「住田型復興モデル住宅」 見学会を開催中

被災者の生活再建を支援

住田町

方々が訪れ、間取りや住宅設備を確かめたり、町の担当者に質問するなど、住宅再建の参考にしている様子でした。

また、今回展示されている3棟については、見学会終了後、被災された方々を対象に土地と建物を払い下げる予定。応急仮設住宅等で暮らす方々の生活再建の一助となることが期待されます。



展示されている「住田型復興モデル住宅」

【今後の見学会の開催予定】 ■対象：被災者された方々 ■日程：10月の毎週土曜日と、10月27日（日） ※見学には事前に予約が必要（10月27日は不要）
■問合せ：住田町役場（建設課）0192-46-2111

いわて復興応援団（員）大募集中！

知って、買って、食べて、行って応援！

登録無料



首都圏等にお住まいの方を対象に、応援団員（個人）と応援団（法人及び団体）の登録を募集しています。登録者には岩手県の復興の取り組みや観光・物産・首都圏でのイベント情報などをお届けします。

詳しくは岩手県東京事務所ホームページをご覧ください。

いわて復興応援団

検索

「ふるさと大槌・夢ケーキ」ワークショップが開催されました

大槌町

未来のふるさとへの想いをケーキに

9月9日（月）大槌町立大槌小学校で、「ふるさと大槌・夢ケーキワークショップ」が開催されました。

これは、地元小学生たちの「こんな“ふるさと”だったらいいな」という想いをケーキにしようという企画の一環。

集まった大槌小学校の6年生90名は、12グループに分かれて作業を開始。自分たちが考える未来の大槌の姿を話し合い、それをグループごとにイラストにまとめ、その想いを発表しました。

ワークショップを企画、コーディネートした行政経営コンサルタントの田淵雪子さんは、「復興に向けたまちづくりの中では、10年後、20年後に主役となる子どもたちが考える“ふるさとの姿”を取り入れたまちづくりをしていく必要があると思います。子どもたちには、このワークショップがふるさとや、そこで暮らしていく将来の自分たちの姿、夢を考えるきっかけになってもらえれば」と、復興に向け歩む大槌への期待を話していました。

なお、10月29日（火）には、今回作った絵をもとに、

本物のケーキである「夢ケーキ」を作る予定となっています。ワークショップに参加した小学生たちも、早くもケーキ作りが待ち遠しい様子でした。

子どもたちが考えた「ふるさとへの想い」

- ・にぎやかで帰りたくなるようなふるさと
- ・みんなで力をあわせてまとまったふるさと
- ・郷土芸能がさかんなふるさと
- ・いろいろなお店があるふるさと
- ・広い公園をつくってみんなが健康にくらすふるさと



想いを絵にする子どもたち



未来の大槌を発表する子どもたち

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。

第6回目は、町田 恵太郎さんを紹介します。

PROFILE

東京都清瀬市出身。東日本大震災津波の発生直後から、自分にも何かできないか考えていたときに、新聞で三陸の復興と地域活性化の業務を目的とした「いわて復興応援隊」の募集を知り、応募。

2012年10月より、野田村産業振興課にて、観光、特産品の情報発信及び道の駅観光物産館「ぱあぶる」の改善業務に取り組んでいる。

その地域で生活することで、地域の本当の姿を知る

県の沿岸北部に位置する野田村で、観光や特産品のPR、情報発信などの業務を担う町田さんは、村内の応急仮設住宅で生活し、日々、地域の方々との交流を深めています。

未来の さんりく びと

野田村役場産業振興課
町田 恵太郎
(まちだけいたろう)さん



町田さんからのひと言：
地域として前進!!

「実際にその地域で生活することで、地域の本当の姿を知ることができると思います」と町田さん。「野田村の方は、村のことを“何もないのが良いところ”と言うが、村には自然がある」と続けます。

多くの方が継続して訪れる“野田村”にしたい

「村には被災から再建した塩工房で作る“のだ塩”やホタテなどの海の幸をはじめ、山ぶどうや南部福豚など、魅力ある特産品もたくさんあります。また、野田村でしか産出されない貴重なマリンローズの原石を見ることができる“マリンローズパーク”もある。“あまちゃん”の影響で村に来ていただいた方が、再度、村に来たいと思ってもらえるよう、情報発信したい」と、村の復興・振興に対する意気込みを語りました。

岩手県の被害状況

平成25年8月31日現在

- ▶人的被害 死者：4,672名 行方不明者：1,145名
- ▶建物被害（住家のみ、全半壊） 25,023棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

皆様のご支援、ありがとうございます

平成25年8月31日現在

- ▶義援金受付状況 約178億3,587万円（86,495件）
- ▶寄付金受付状況 約165億8,889万円（6,261件）
- ▶いわての学び希望基金受付状況 約59億748万円（10,945件）

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富に【いわて復興だより [Web](#)】がスタートしました。 <http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第49号 平成25年10月1日 企画・発行：岩手県復興局総務企画課 ☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

[いわて復興だより](#)

[検索](#)

編集・印刷：シナプス